

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270201132
法人名	医療法人 翠山会
事業所名	グループホーム なかよし
訪問調査日	平成 19 年 12 月 13 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 28 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270201132
法人名	医療法人 翠山会
事業所名	グループホームなかよし
所在地 (電話番号)	長崎県佐世保市赤崎町81-3 (電話) 0956-42-5566

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成19年12月13日	評価確定日	平成20年1月28日

【情報提供票より】(平成19年11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	10 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 14.8 人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) 単独	(新築) 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成19年11月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	72 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いちようクリニック、宮嶋歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街に位置しており、地域密着型サービスとして、自治会役員の方々を中心に地域住民と日頃より交流を図っている。近隣小学校とも頻りに交流の機会を持っているほか、子ども110番も引き受けており、学校帰りの子ども達がトイレを借りに来たり、お茶を飲んでいったりすることもしばしばあり、利用者は子ども達と楽しい時間を過ごしている。「元気で、楽しく、ゆったりと」を理念に掲げ、急変時などいつでも対応できるように医療連携体制を確立し、利用者が残存機能を維持しながら楽しく生活してもらえるように、得意分野で力を発揮してもらい、利用者の自信や生き甲斐をもった生活の支援に努めている。管理者は、利用者との関係を大切にして、利用者の支援を行う中で職員それぞれの能力を十分に発揮できるように配慮し、生き活きとやりがいのある職場づくりを目指している。これからは管理者と職員が一丸となって、利用者を主体とした支援に努め、家族的なグループホームの運営を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果をもとに、地域の方々から電話や来所による介護などの相談を受けているほか、防犯のため施錠していた玄関の鍵をかけず自由に入出入り出来るようにし、利用者一人での外出には見守りをする等の対応をしている。また、一人ひとりに合わせたケアに努め、認知症が重度の利用者の生活に落ち着きが見え始めるなどの成果も挙げている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価への取り組みの際に、職員全員に自己評価票を配布し、全員で項目へのチェックを行い、管理者を中心に意見を集約しながら自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、自治会長、市職員、利用者代表、家族代表、法人代表、管理者、職員の参加により、3ヶ月に1回開催している。会議では、日頃の状況報告と今後の取り組み等の説明を行い、参加者から率直な意見を出してもらっており、運営の参考にするよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月ホーム便りを送付したり、家族がホームを訪れた際に、利用者の日頃の様子を伝え、情報提供を行いながら、家族の意見や要望を聴くように努め、玄関には意見箱も設置しており、家族からの意見、要望に対しては、速やかに職員で話し合いを行って、運営に反映するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会を中心とした地域住民との交流を図っているほか、「こども110番」を引き受けて地域の子どもの安全確保への協力をしており、小学生が学校帰りに立ち寄り、利用者と一緒にお茶を飲んで楽しく過ごすこともしばしばある。また、小学生のボランティア活動の受け入れや地域の文化祭への参加など、地域活動に積極的に参加して、地域住民との交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域への恩返し(ご奉仕)を理念の柱としており、地域密着型サービスの意義を理解し、利用者の地域生活の継続支援、事業所と地域の関係強化に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員に対する理念の意識付けをきちんと行っており、「元気に楽しくゆっくり」暮らしたいという利用者の声を活かし、残存機能の維持、環境整備、医療面の支援の充実、地域社会との交流を図りながら、利用者の支援を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「こども110番」を引き受けて、地域の子どもたちの安全確保への協力をしているほか、小学生のボランティア活動の受け入れや地域の文化祭への参加など、地域活動に積極的に参加して、地域住民との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価票を配布しており、全員の意見をまとめて評価票を作成している。前回の評価後の取り組みについて改善シートの作成はないが、地域住民の介護相談を受けたり、鍵をかけないケアに取り組むなど、改善に向けた努力が窺える。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、自治会長、市職員、利用者代表、家族代表、法人代表、管理者、職員の参加により、3ヶ月に1回開催している。会議では、日頃の状況報告と今後の取り組み等の説明を行い、参加者から率直な意見を出してもらっており、運営の参考にするよう取り組んでいる。		

長崎県 グループホームなかよし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、運営推進会議に出席してもらう以外の連携、協力がほとんど得られていないが、高齢者支援センターの職員とは交流や連携が図られている。	○	運営推進会議を活用し、事業所から市担当者へ積極的な情報提供を行い、考え方や実態を共有していくことで市担当者に積極的に関わってもらうよう働きかけ、市担当者とともに課題解決を図っていく取り組みを期待したい。また、担当者が変わっても、協働関係が継続されることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行し、請求書と一緒に送付しているほか、家族の面会時にも利用者一人ひとりの日常生活の様子、健康状態などについて伝えている。金銭の利用状況については、出納帳に記録して毎月家族に確認してもらいサインをもらっている。また、家族が遠方に住んでいる場合は、出納帳をコピーして送付し、確認のサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族との信頼関係を築いていきたいという職員の姿勢が見受けられ、家族がホームを訪れた際には、常に話しかけ、利用者の日頃の様子を伝えるとともに、意見を聴くように努めている。また、玄関には意見箱も設置し、家族からの意見、要望に対しては、速やかに職員で話し合いを行って対応しており、運営に反映するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員は固定しており、利用者との馴染みの関係が保たれるように努めている。また、職員が退職する場合は、利用者に合わせて対応や家族への説明を行うとともに、退職理由をしっかりと把握し、勤務内容や条件を見直すことによる職員の定着にも努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、業務の中で管理者から指導を受けたり、法人内外の勉強会や研修会に意欲的に参加したりするなど、学ぶ機会を得ている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、他事業所の職員との交流や勉強会の参加により、知識の修得や情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの近隣に住んでいた利用者もおり、入居後慣れるまで散歩の際に自宅に立ち寄るなど、利用者、家族が安心感を持てるような配慮や気配りに努め、利用者が納得してサービスを受けられるような支援を心がけ、無理のない生活スタイルを作り上げるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりが得意分野で力を発揮できるような環境づくりに努め、干し柿や梅干し作りなど、職員が利用者に教えてもらいながら一緒に作業に取り組み、利用者の自信や生き甲斐につながるよう支援している。	○	利用者の言葉や動作、様子などを記録に残し、利用者一人ひとりへのケアサービスの質の向上に役立てるよう取り組まれることを期待したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々の関わりの中で利用者と家族の意向を把握するように努め、月1回のケア会議の中で職員間で話し合っており、必要な事は申し送り帳に記載し、全職員で情報を共有しながら支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族から、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、職員全員でアセスメントも含めて意見交換を行いながら介護計画を作成している。また、利用者それぞれの計画をケアチェック表に書き出し、介護計画に沿ったケアを行っているかの確認を行いながら支援している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しを行うとともに、利用者の状態変化が見られる場合には、速やかに情報収集を行い、現状に即した見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、必要な支援を行うとともに、お墓参りなどの希望にも柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、利用者本人や家族の選択に任せ、希望する医療機関をかかりつけとして受診してもらっている。また、年2回は定期健診を受けられるように支援しているほか、医療連携体制を整えており、利用者や家族には契約時に説明を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期の支援については、契約時に説明を行っており、医師や家族と話し合いを行いながら方針を共有し支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を敬うことを忘れず、利用者の立場に立って考え、利用者の誇りやプライドを損なわない対応を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、利用者一人ひとりの体調や希望を尊重して支援しており、レクリエーションなどについても強制することなく自由に参加してもらうように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	専属の調理職員を配置しているが、調理や食事の準備などできることは利用者も一緒に行っており、食事も職員と利用者が一緒に摂っている。また、誕生日や花見などの季節ごとの行事の料理や、外食に出かけるなどの工夫も行い、食を楽しめるような支援に努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制にしているが、ほとんどの利用者が、週2～3回午後からの時間帯に入浴をしている。入浴の順番等については、利用者の中で自然と決まっており、トラブル等もなく利用者の希望を尊重しながら一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの個性や得意なことを把握し、その人にあった楽しみや役割を見出して支援している。利用者によっては、絵の色付けに取り組むことで楽しみを見出し、やる気が引き出され、生活全体に落ち着きが出てくるようになるなど、支援の成果が見受けられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者と一緒にホームの外に洗濯物を干して、そのまま近くの公園まで散歩に行ったり、車で食料品の買い出しに出かけたりしている。また、近隣に自宅がある利用者は、自宅まで季節の花を摘みに行くなど、利用者それぞれに合わせた支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のすぐ側に交通量の多い道路があるため玄関に施錠をしていたが、前回の評価において課題となっていたため、検討のうえ日中は鍵をかけないようにして見守りの支援等に取り組んでいる。		玄関の鍵をかけず、利用者の自由な生活の支援に取り組んでおられるので、今後見守り方法にさらに工夫を加えられると効果的ではないだろうか。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方、救急蘇生法等の訓練を定期的に行っている。また、地域の方の協力を得られるように、自治会長への働きかけも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員間で情報を共有しており、献立については定期的に管理栄養士の専門的アドバイスをもらっている。また、いつでも飲めるようにお茶をホールに準備しており、夜間は部屋に水筒を置いて水分補給しやすいように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間などの飾りつけには季節感を出すような工夫を施し、テレビやいくつかのソファを配置しており、窓からは港の風景を眺めることができ、明るく、くつろげる空間となるよう配慮されている。また、洗面所には、いつでもうがいができるように、塩水とうがい薬を薄めたものをペットボトルに準備して配置している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の窓から見える風景が方角によって違うため、入居の際に利用者と家族に選んでもらっている。居室には、写真や使い慣れた日用品が持ち込まれ、本人の作品をたくさん飾ったり、観葉植物や花を飾ったりして、利用者にとって居心地のよい空間づくりを行っている。		